



NTT

NTT Information Sharing Platform Laboratories
NTT 情報流通プラットフォーム研究所

セマンティック技術による企業内情報の統合・再構成

セマンティックWebコンファレンス2009
パネルディスカッション「エンタープライズ3.0に向けて」資料

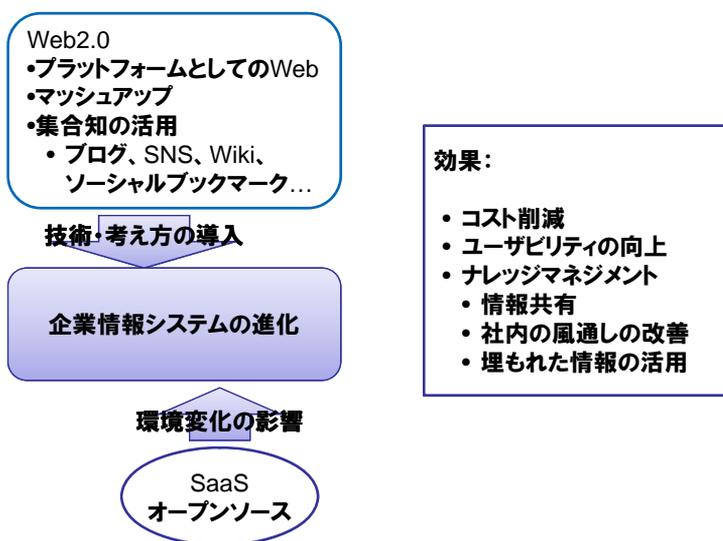
佐藤 宏之

© 2009 NTT Information Sharing Platform Laboratories

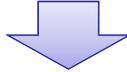


NTT

エンタープライズ2.0とは



- 従来のエンタープライズ2.0における企業内情報活用の問題
 - 業務によってコアデータが異なる
 - 最初からマッシュアップの仕方、対象データを特定できない
 - Web2.0環境と異なりユーザフィードバックからサービスを進化させ続ける人がいない
 - 業務に忙しいユーザによる集合知の創出は期待できないことが多い



- 業務の多様な目的に合わせて、マッシュアップする対象データを変えたり、複数のマッシュアップの結果をユーザが選択できたりすることが必要
- ユーザの業務アクティビティをデータに反映させる仕組みが必要

- NTTの研究所
 - 3つの総合研究所の下に12の研究所
 - 約2,500名の研究者
- 研究企画担当者の声
 - 客観的かつ多様な視点で以下を定期的に確認したい
 - 研究テーマのポートフォリオが組めているか
 - 研究所間の連携が機能しているか
 - 研究リソースの配分がうまくいっているか
- iMage(NTT研究所の技術)を利用した所内情報の統合と再構成を検討

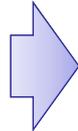
目指す効果:

- 意思決定の支援
- PDCAのためのツール

もともといっしょに扱う予定のなかったネットワーク上のデータを統合して活用
個別のデータベースを参照するだけではわからなかった情報の創出



組織内の
様々な情報



Q:「次世代Web技術に
詳しくな人知ってる?」
(従来) A:「山田さん。」

聞かれてないことまで!

KnowWho
どんな人?

彼って、あなたのところの、田中さんと同じで、
学会活動が活発なんだよね。
そういえば、この前のWeb研究会でも・・・」

解説なども勝手に生成!

KnowHow
最適な方法は?

αプロジェクトの状況は、
2005年のβプロジェクトと酷似しており、
効果的だったこの手法が使えるのでは?

User-View



複数の観点で候補者や組織を提
示するKnowWho

○ 技術にアカデミックな成果
がある人は? 組織は?

Aさん
Bさん
Cさん...

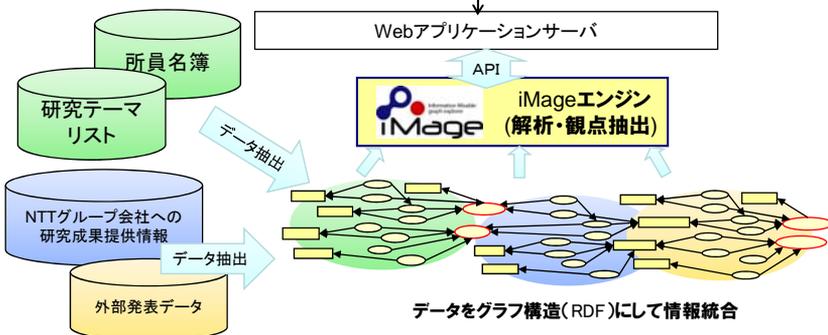
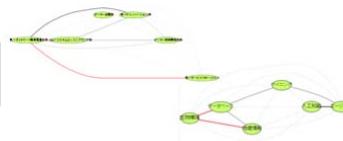
○ 技術について担
当者がいる組織は?

D部
E課
Fグループ

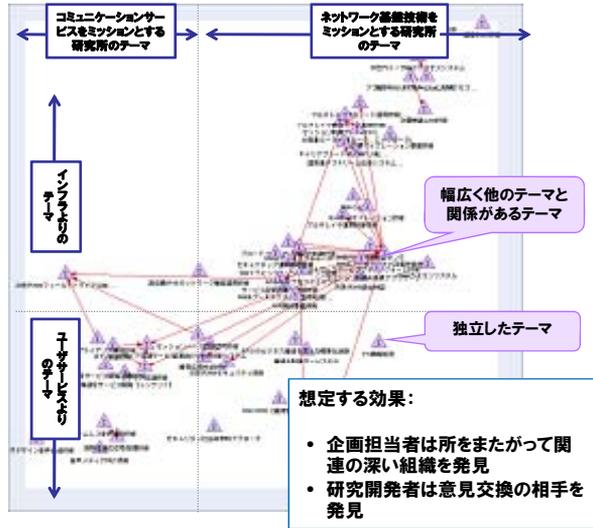
○ 技術について事
業に提供したプロダク
トを持つ組織は?



観点毎に形成される人や組織や
技術同士の関係図

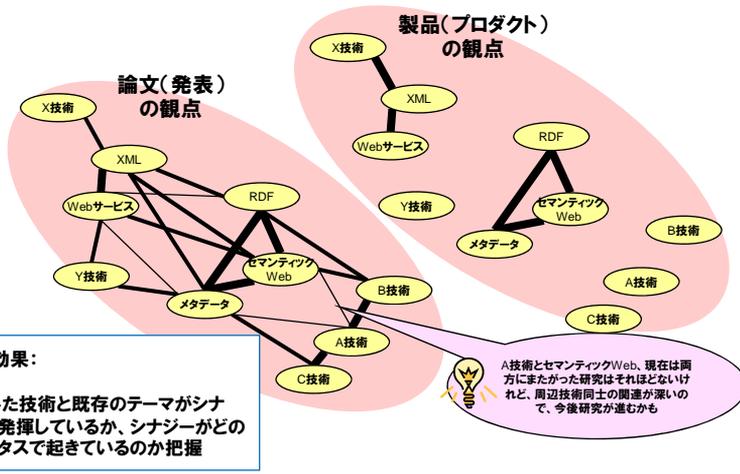


- ある技術やトピックに関する研究テーマの抽出とそれらの関係表示
 - 各テーマ同士は直接関係していなくても、所属する研究者の発表活動におけるキーワードの共通点から関係を得ている

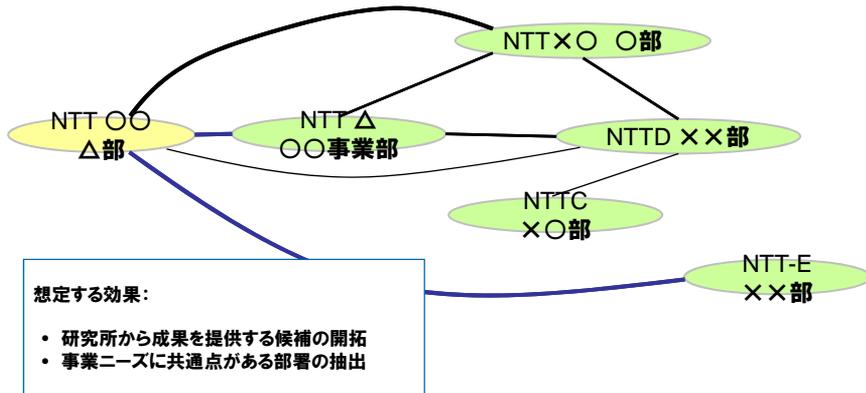


「研究テーマ」だけでなく、「組織」、「人」、「技術」、「関連学会」など任意の情報が検索対象となり、それらの関係抽出が可能

- 統合データの中で生じている対象データ間の間接的なつながりの違い(関係の意味の違い)に基づいて、関係の強弱を変えて表示できる



- ある技術に関する組織を検索したところ、研究所外のNTTグループ会社の部署が検索結果の候補に複数現れた
- それらの関係は、研究所成果として提供された製品の要素技術に共通点が多い部署同士を示していることがわかった



- エンタープライズ3.0に向けて、社内の情報共有だけでなく、意思決定やPDCAのツールとして、セマンティック技術の活用を検討中
- 今後、複数の事業部をもつ組織やグループ会社間での展開を検討したい
- また、社外の情報も取り込み、競合や連携候補の分析を行いたい